

～よりよい未来を選択できる子ども達の育成をめざして～
所内横断的チームによる思春期保健対策の取組

山城広域振興局山城北保健所保健室

【事業背景】

妊娠・出産の知識として「妊娠適齢期があること」「予防可能な不妊要因があること」を知らない人が多く、「40歳を過ぎても普通に妊娠できる」という誤った知識を持っている人が多い。

また、特定不妊治療医療費助成申請者から、「卵子の老化についての知識をもっと早く知りたかった」という声が聞かれる。

妊娠・出産の知識として大切なことにもかかわらず、どこからも教わる機会がないのが現状である。

【事業趣旨】

女性自らが「生む・生まない」の選択が正確な知識のもとに行われておらず、晩婚・晩産等による特定不妊治療医療費助成申請者や低出生体重児の増加などの現状の中で、将来産みたい人が皆健康に妊娠・出産できるための正確な知識を結婚・妊娠等を考える前の高校生や大学生に与える必要がある。

【事業内容】

所内横断的チーム、他職種連携で人材育成、出張健康教育、高校生向けパンフレットの作成、フォーラムの開催、一般府民への啓発等に取り組んだ。

思春期保健従事者研修会（H25、26）

対象：小・中・高校・大学教職員、市町保健師

内容：講義「ライフスキルアップ教育」（生を育む教育）

講師：思春期相談士

保健所からの情報提供（性感染症、虐待未然防止、母子保健、食育、こころの健康、薬物乱用防止）

出張健康教育（H25、26）

対象：中学卒業前の3年生、高校生、大学生

内容：キーワード（妊娠・出産・子育て、性感染症、デートDV、よりよい人間関係、自己責任、自己決定など）

講師：思春期保健相談士

高校生向け啓発パンフレットの作成（H26）

思春期保健相談士がコーディネーターとなってピアグループ（管内大学生）とのミーティングを実施し、内容を検討

思春期フォーラム2014（H26）

対象：学校関係者、医療関係者、行政、一般府民等

内容：産婦人科医による基調講演

府立高校保健体育教員による実践報告

産婦人科医、スクールカウンセラー、助産師、思春期保健相談士、市町保健所保健師によるパネルディスカッション

【成果】

・これまでは、望まない妊娠を避けるなどの避妊教育が中心であったが、妊娠にも適齢期があることを伝えることの重要性について理解された。

・事業の事後アンケート結果から、思春期保健に取り組む重要性について関係者の理解が深まった。

・教職員、生徒の感想から、今までとは違った視点での「性（生）教育」が一定教職員、生徒の心に響いたと考えられる。

【今後の方向性】

・思春期従事者研修会の継続実施

・学校関係者（管理職、一般教職員）、保護者への啓発

・高校生向けパンフレットを使用した出張健康教育（生徒、教職員向け）